

## 石倉洋子先生告別式での学長弔辞

三日前、先生の訃報に接し、あまりに急なお知らせに、暫くは信じることができませんでした。春の訪れとともに、いつもと変わらないあなたの健康でにこやかなお顔を見ることができると考えておりましたのに、今ここで、こういう形であなたの前に立ってお悔やみを読もうとは、全く思いもかけないことであり、本当に残念な思いでいっぱいであります。ここに白鷗大学を代表して、先生のご逝去を衷心より悼み、謹んで哀悼の言葉を申し上げます。

先生は1986年、白鷗大学の開設と同時に助教授として就任、1990年には教授に昇格され、以来今日まで16年の長きにわたり、本学の教育と研究に精魂こめて尽くしてくださいました。つとに教育に情熱と理想をお持ちになり、特に学生に対しては、まるで母のような優しさと厳しさをもって指導に当たっておられましたことは、誰もが知るところであります。少人数教育の取り組みとして、教養ゼミナールの構想が持ち上がると、率先してゼミナールを開設され、以来石倉ゼミナールは「環境問題研究」をテーマに着々と実績を上げつつあるところであります。学生のみならず、本学の損失は計り知れない大きなものがあります。また、例えば、病の苦しさの中で、本年度の最後の授業をしっかりと終わらせた上、病床にあってテストの採点まで仕上げていただいたそうであります。ご自分自身がそうした状態にありながら、最後まで学生の面倒を見るという、その責任感の強さにはただ感動と感謝を捧げるのみであります。

先生から学生へのメッセージとして「環境問題の大切なことはわかっているけど、今日のところは大丈夫だから、明日も大丈夫だろうと、首をすくめてやり過ごしていいのだろうか、と一度じっくりと考えてみて欲しい

と思う」という一節があります。清廉で曲がったことが嫌いだっただ先生、いつも何が今大事なのかを教えてくださいました本当の教育者だったと思います。同時に生来の穏やかさと冷静さをもって、地域社会の要職をいくつも熱心にこなされて、その発展に大きく貢献されました。

先生が各所に蒔かれた種は、きっと日一日と成長し、やがて大学を、地域社会を支える大きな柱となるであろうと確信しております。白鷗大学ではあなたの足跡をたどり、その意志を受け継ぎ、これを発展させて行くことを強くお約束したいと思います。

ここに心から先生のご冥福をお祈り申し上げ、弔辞といたします。

平成14年2月7日

白鷗大学

学長 小 山 宙 丸